

令和8年度都立竹早高等学校学校経営計画

校長 俵田 浩一

1 目指す学校

府立第二高等女学校からの良き伝統を引き継ぎながら、「自主自律」の教育目標のもと自ら課題を見つけて意欲的に学ぶ力や社会性・規範意識を育成するとともに、社会において活躍できる人材を育成するための学校である。

【スクールミッション】

総合的な学力を身につける教育課程により、広い視野と教養を養い、探究学習、理数教育や国際理解教育などの特色ある教育活動を通じて「主体性・自律性」を伸ばし、創造力を発揮して新たな価値を生み出し、持続可能な社会の創り手として活躍できる人材を育成します。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

教育活動全体を通して、次の①から③を育成する。

- ① 豊かな人生の実現・次代の社会を形成することに向けた諸課題に対応できる資質・能力
- ② 学習の基礎としての言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力
- ③ 各教科・特別活動等における、知識及び技能、思考力・判断力、表現力、学びに向かう力

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 2年次までは、各教科の基礎・総合科目を共通履修とし、総合的な学力を身に付けさせる。
- ② 生徒それぞれの多様な進路希望や可能性を引き出す。生涯にわたって学ぶ力の基礎となる「確かな学力」を育成する。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 将来への目的意識を高くもち、志望する大学への進学の実現に向けて、意欲的に学習する努力を継続できる生徒
- ② 基本的な生活習慣を身に付けているとともに、社会の一員としての自覚をもってモラルやマナーを大切にしている生徒
- ③ 中学校での委員会活動や部活動等で優れた成果や実績があり、高校でもその経験を生かして中心となって活動する生徒
- ④ 地域活動への参加など社会のためにならうとする態度を身に付け、自分自身にふさわしい生き方を探究する生徒

2 中期的目標と方策

(1) 「チーム竹早」としての学習指導の向上

- ① 基礎・基本の徹底を図るとともに、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図る。
- ② 難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせ、進学実績の向上を図るなど、「チーム竹早」としての指導力の向上を図る。
- ③ 大学入学共通テストに向けて、記述力や論理的思考力の向上を図るとともに、探究活動、教科の指導内容の検討を推進する。
- ④ 教科会を充実させることで、各教科の更なる質の向上を目指す。
- ⑤ 新学習指導要領の趣旨を踏まえて円滑に実施する。
- ⑥ 理数研究拠点校として、教科と連携して生徒の学力の向上を図る。

(2) 組織的な進路指導

- ① 進路部を中心とした高等学校の3年間を見通した進路指導により、生徒の進路実現・自己実現に向け各分掌・学年が組織的に機能する体制を構築する。
- ② 進路部が中心となり、学年と連携し、定期考査、外部模試などの結果を分析し、その分析に基づく指導を行う。
- ③ 総合型選抜や海外の大学進学に関する情報提供を進める。
- ④ 組織的な講習・補習や保護者との面談などを実施する。

⑤ 新学習指導要領に向けた、新しい学力に関する成果を検証する。

(3) 組織的な探究活動

- ① 探究部を中心として、教科、学年と連携した体制により、高等学校の3年間を見通した系統的な指導を学校全体でより一層推進する。
- ② 高校1・2・3年生の「総合的な探究の時間」を中心に、各教科での探究学習、教科横断的な学びを推進する。
- ③ 探究活動を推進するに当たり、理数研究拠点校としてデータサイエンスや統計処理の手法を適切に取り入れるとともに、全校生徒が個人端末を利用して、積極的にネットワークや学習支援システムを活用する。
- ④ 高等学校2学年の論文作成に向けて、すべての教職員の共通理解と協力体制を整える。
- ⑥ **【TIPS-Type3】Tokyo-IBL** ハイスクール、理数研究拠点校として、教科と連携して探究活動を推進する。

(4) 特別活動の充実・発展

① 様々な学校行事や部活動などを通じ、生徒の「自主・自律」の精神や後輩を育成する意識を育てる。

(5) 国際理解教育・国際交流の推進

- ① Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education (GE-NET EE)として、国際理解教育や国際交流を進める。
- ② 海外学校間交流推進校として、留学生や学校訪問を積極的に受け入れることにより、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する。
- ③ TAKEHAYA UK サマーキャンプによる国際理解教育を推進する。

(6) ICT機器利用の推進

- ① 各教科でICT機器の活用を推進するとともに、生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。
- ② 探究活動や各教科で個人端末を有効に活用する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の取組目標と方策

① 学習指導

- ア 各教科で共通理解を図り、新学習指導要領の円滑な実施を図る。
- イ 教科会で3年間の指導計画・内容の周知・徹底を図り組織的な教科指導を行う。
- ウ 定期考査等の分析により基礎・基本の定着状況を随時把握する。
- エ 応用力を育成するために発展的な内容の学習へ取り組む。
- オ 全教科でアクティブラーニングを推進する。
- カ 全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。
- キ 理数研究拠点校として理数教育の充実を図る。
- ク 表現力・記述力を向上させるために言語能力の育成に組織的に取り組む。
- ケ 習熟度別授業を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。
- コ 探究活動として高校1・2・3年生で「総合的な探究の時間」の授業を実施する。
- サ オンライン英会話を活用し、4技能の中でも特に「聞く・話す」の能力の向上を図る。
- シ チャイムに始まり、チャイムに終わる授業を実施する。
- ス 学校評価アンケートの分析結果や管理職による授業観察での助言等を参考として授業力向上のための課題解決を図る。
- セ 教員相互の授業見学や指導教諭の授業への参観を行う。
- ソ 自習室の活用を推進する。

② 進路指導

- ア 高等学校3年間を見通した進路計画の改善・充実を図る。
- イ 大学受験結果の分析とそれに基づく指導体制の充実を図る。
- ウ 進路検討会、模擬試験のデータの分析に基づき、全ての教員の指導を充実させる。
- エ 進路部が中心となり長期休業中の講習を組織的に実施する。
- オ 保護者を交えた三者面談を随時実施する。
- カ 電子調査書への対応として、学年と連携して生徒のキャリアパスポートの活用を推進する。

③ 探究活動

- ア 【TIPS-Type3】Tokyo-IBL ハイスクールとして、探究部を中心に教科、学年と連携した3年間を見通した系統的な指導を学校全体で周知し、全ての教員が探究活動を推進する。
- イ 高校1・2・3年生の「総合的な探究の時間」において理数研究拠点校としてデータサイエンスや統計処理の内容を充実させる。
- ウ すべての教科・特別活動で探究活動を推進するために、各教科で指導計画を整える。
- エ 全校生徒が個人端末を利用して、積極的にネットワークや各種ソフトウェアを活用する。

④ 生活指導

- ア 生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。
- イ 交通ルールの遵守と自転車通学マナーを向上させるとともに、自転車通学におけるヘルメット着用を推進する。
- ウ スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。
- エ 常識的な身だしなみについて服装・頭髪等の指導を行うことで自主自律の精神の育成を図る。

⑤ 特別活動・部活動

- ア 多くの体験活動を通して、生徒の自信を高めさせ、協力することの大切さや日々の努力の積み重ねの大切さ等に気付かせ、困難にめげない力を高める等、活動を通して、人間的な力を高めさせていく。
- イ 総合的な子供の基礎体力向上施策に基づく体力向上を図る。

⑥ 国際理解教育・国際交流の推進

- ア 国内語学研修、海外語学研修を通して国際理解教育と国際交流を推進する。
- イ 海外語学研修においては十分な調査と安全対策の確立、生徒・保護者への丁寧な説明、業者との連携を綿密にとることで円滑に実施する。
- ウ 海外帰国生徒受入校として異文化理解と多様性理解の推進を図る。
- エ 東京都教育委員会が主催する海外派遣研修に積極的に参加する。

⑦ 健康づくり

- ア 校内美化を推進し、コンディションレポート等を活用することで健康的で安全な学習環境づくりに努める。
- イ 防災教育について防災教育推進委員会が中心となり、関係機関と連携を図りながら組織的・計画的に実施する。
- ウ スクールカウンセラーを活用し、高校1年生全員への面談を行い、精神的な課題のある生徒の早期発見に努めるとともにカウンセリング機能を充実させる。

⑧ 学校2020レガシーの推進

- ア 「日本の食文化」に対する理解を深める取組を推進する。

⑨ 特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制

- ア 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。
- イ 必要に応じて「通級による指導」制度を活用する。

⑩ 自殺対策に資する教育の推進

- ア 東京都教育委員会作成資料「SOSの出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

⑪ 校内環境の整備

- ア 施設の安全管理を徹底する。
- イ 施設の老朽化に伴う不具合には経営企画室と連携して迅速に対応する。
- ウ 自習室等学習環境の整備を推進する。

⑫ ライフ・ワーク・バランスの推進

- ア 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、学校の業務改善を推進する。
- イ テレワークの活用と計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- ウ 日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。

エ 管理職は、毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接の実施により、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。

⑬ 経営企画室と一体となった学校経営の推進

ア 経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。

イ 施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。

ウ 経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

⑭ その他

ア 年間を通じた服務事故防止研修会を実施、個人情報管理、サービス管理、危機管理の徹底を図る。

(2) 重点目標と方策

① 学習指導・教科指導力の向上

ア アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、3年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。

イ 校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム竹早」としての組織的な教科指導力の向上を図る。

ウ 新学習指導要領の趣旨を踏まえて各教科で授業力の向上を図る。

エ 令和9年度から実施する新教育課程の円滑な実施に向けて準備を進める。

② 3年間を見通した組織的な進路指導の実施

ア 3年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

③ 3年間を見通した組織的な探究活動の実施

ア 本校の特色である探究活動について全教員が協力して推進を図る。

イ 「総合的な探究の時間」及び全教科で探究活動を推進し、新学習指導要領と大学共通テストへの対応を推進する。

④ ICT機器の環境整備とICT機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進する。

4 数値目標

(1) 学習指導

生徒の授業満足度	85%
夏季講習	70講座(1~3年)
夏季講習申込人数	1,500名
定例教科会	12回/年
教員相互授業見学	3回/年

(2) 生活指導

部活動 都ベスト64以上	3部
部活動入部人数	非加入率5%以下
行事満足度	80%

(3) 進路指導

国公立大学現役合格	85名(うち難関大学10名)
難関私立大現役合格	90名
大学入学共通テスト各科目平均点	75%
模試分析会	2回(1,2年) 3回(3年)

(4) 広報活動

ホームページ更新	400回
応募倍率	1.8倍